

研究プロジェクト紹介

こどもみらい館では、保育園(所)・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えた共同機構として、このたび、下記の2つのプロジェクトを発足いたします。

「保幼小連携研究プロジェクト」は既に5月より始動していますが、今秋には「子育て支援研究プロジェクト」を立ち上げる予定であります。

今回の「かがやき」では、2つの研究プロジェクトについて、活動内容や今日までの様子をお知らせ致します。

子育て支援研究プロジェクト

保育園(所)・幼稚園を核とした地域の子育て支援のあるべき姿について考察していくことを目的としています。具体的なテーマ・手法等は、第1回会議で協議・決定する予定です。

<メンバーについて>

共同機構団体から、参画を募っていきます。

<期間>

平成22年11月から平成24年3月まで

保幼小連携研究プロジェクト

保育園(所)保育士・幼稚園教諭・小学校教諭が共にお互いの保育・教育について話し合い、子どもの発達の連続性を見通した保育・教育について考察していくことを目的としています。

研究プロジェクトでは2つのグループを作り、それぞれのグループで研究を重ねて行き、定期的に2グループの合同研究会も開催する予定です。

<グループ紹介>

◎御池保育所、中京もえぎ幼稚園、御所南小学校グループ

◎錦林保育所、コドモのイエ幼稚園、第三錦林小学校グループ

<期間>

平成22年5月から平成24年3月まで

どちらのグループも見学等を重ね、お互いを知ることから活動が始っています。今後は研究テーマを決めて研究を深めていきます。

この2つの研究プロジェクトは、最終年の23年に報告会を実施予定です。

平成22年度 共同機構研修会 第1回

平成22年4月30日(金)

京都市私立幼稚園協会共催

求められる保育の充実

講師 鯨岡 峻 中京大学教授

中京大学発達心理学教授。京都大学名誉教授。専門分野は、発達心理学、発達臨床心理学、保育心理学。著書に「障害児保育」「保育のためのエピソード記述入門」他。「両義性の発達心理学」は、1999年日本保育学会学会賞（文献賞）を受賞。

「保育の充実」というとき、何をもって「保育の充実」と考えるかによって目指す方向性が分かります。早く子どもに力をつけていろいろなことができるようにすることが「充実」ではなく、子どもの心の面に焦点を合わせたときの「充実」、つまり子どもの「心の充実」こそ、今求められる「保育の充実」ではないかと思えます。

「させる」保育、「頑張らせて褒める」保育、「保護者に見せる」保育ではなく、子ども一人ひとりの心が充実する保育を目指さなければなりません。「主体として受け止め(養護)、主体として返す(教育)」ことが保育の基本と表現してきましたが、この“養護”の土台がしっかりすることこそ、今求められている「保育の充実」に繋がるのではないのでしょうか。

<参加者のアンケートより>

「日々の保育の中でとても大切なことを学べた」「今の保育のあり方を再認識できた」という感想が多数でした。また、非常に分かりやすくお話しして頂き、『心を育てる保育』をもっと学んでいきたいという感想もありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

平成22年度 共同機構研修会 第2回

平成22年5月10日(月)

京都市保育士会共催

遊びの充実と環境のあり方

講師 河邊 貴子 聖心女子大学教授

聖心女子大学文学部教育学科教授。第3期中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員、幼稚園教育要領解説作成協力者等を歴任。研究課題は、保育記録のあり方、子どもの遊びと保育者の役割等。著書に「子どもごころ」「遊びを中心とした保育～保育記録から読み解く援助と展開」他。

遊びは何かの目的のためにするものではなく、面白いからするという行為そのものが目的です。面白く遊んでいる中で、様々なことが育ちます。保育者は遊びの充実に向け、子どもの遊びの状況が豊かになるよう、人・モノ・対象をイメージで繋げられる環境を保育者の願いと子ども思いの双方向性で用意することが大切です。一人ひとりの子どもがどちらを向いているか、向かっている方向の遊びがどうなっているのかを、どう読み取り、どう環境を構成するのが保育の専門性です。

<参加者のアンケートより>

「保育者の在り方や保育の方向性が明らかになりました」「事例や写真を多く用いていただき、大切なことが具体的にわかりました」と、今日の学びに照らして自らの保育や環境構成を見直し、明日からの保育にいかしていきたいという感想が多数でした。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

平成22年度 共同機構連続講座

「気がかり」な子どもと集団づくり

平成22年6月23日(水) 乳児クラス編
 平成22年6月30日(水) 幼児クラス編

講師 服部 敬子 京都府立大学准教授

京都府立大学公共政策学部福祉社会学科准教授。専門分野は発達心理学・保育学。研究テーマは、子どもの自我の発達と集団づくり。主な著書は「幼児が『心』に出会うとき」(共著)、「育ちあう乳幼児心理学」(共著)、「保育計画のつくり方・いかし方」(共著)、「人と生きる力を育てるー乳児期からの集団づくり」(共著)他。

平成22年6月23日(水) 乳児クラス編

関わりの難しい子どもは人との関係が作りにくい姿がありますが、発達の早い時期に良い関わりができると、その子の脳のつながりを変えていくことができると言われています。

発達の「つながり」には2つの観点があります。1つ目は、時間的な流れや筋道であるタテのつながりです。子どもの「今」の姿をこれまでの到達点とこれからの土台という2つの方向から捉えることが大事です。2つ目は、ある時点での機能連関やアンバランスさを見ていくというヨコのつながりです。それは、“身体全体でどのような活動や姿勢が取れているか” “手でどのようなことができているか” “考える力、言葉の力がどう育ってきているか” “対人交流がどのようにできているか” の4つの面で見たと、自我の発達をとらえていくことです。生理的な基盤が大きく変化する「新しい発達の原動力」の誕生期から飛躍的移行期、他者との親密な関係を求める時期など、そのときどきに特徴的な子どもの発達へのねがいを汲み、関わっていくことが大事です。

<参加者のアンケートより>

「発達の基本と保育の手立てとの大切さがよりわかりました」「子どもの発達をしっかり把握した上での保育者の言葉かけ、援助の大切さを改めて感じました」など、発達の筋道への理解を振り返りながら、実践に繋げていきたいという感想が多数ありました。

平成22年6月30日(水) 幼児クラス編

集団づくりの考え方のポイントは、クラスをまとめるというイメージだけでなく、一人ひとりのねがいや考えを大事にする子ども同士の関係を作りだしていくこと、あまり望ましくない関係があるときにそれを計画的、意図的に作り変えていく指導ということです。そして、ある子どもに「気がかり」な行動が起こったときに、保育者と子どもという1対1の関係で解決していくのではなく、他の子どもたちに投げ返していき、一人の問題をみんなの問題として考えていくような取り組みが大事であると思います。かわりの難しい子どもたちも、ある特定の人との関係、あるひとつの関係をきっかけにして大きく変わっていきます。意識的に子ども同士の関係を作りだし、心が動くような経験を用意していくかを「周到に用意しながら待つ」のが集団づくりの取り組みの役割ではないかと思います。

<参加者のアンケートより>

「子どもたちの思いを受け止め、寄り添うことの大切さに気づき、自分の刺激にもなりました」「実践に生かしていきたいと思います」という意欲的な感想が多数ありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています

子どもを共に育む『親支援』プログラム

ほっこい子育てひろば

「子どもを共に育む京都市民憲章」の趣旨を踏まえ、親自身が喜びと共に子どもを育てられるよう、「親としての心構えや必要な技術」を身につけるとともに、不安や疑問、悩みを乗り越えるためのプログラムです。

親が子育てにおいて感じる不安や悩み、疑問、孤独感などを軽減して、親自身が子どもと共に成長することを手助けするものです。親同士がお互いの思いや考えなどを、エピソードやグループでの作業、話し合い等を通じて交流することで、自ら気づき、学ぶとともに、同じような悩みや不安を抱える親同士や、地域で子育てを支援する者が結ばれ、共に子どもを育てていくことを目的としています。

京都市では、これから、様々な場で子育て支援をする関係者の皆様の御協力のもと実践の輪を広げ、親育ちや仲間づくりの場につなげていきます。

こどもみらい館でも、5月より「妊娠期乳幼児期」のプログラムを実施しています。参加者同士が話し合うことで「みんな同じような子育ての悩みを持っているんだなあと思いました」「考え方をひとつ変えるだけで気持ちが楽になるんだと思いました」など、自らが気づき、不安や悩みの軽減に繋がったような感想が多く聞かれています。大変好評で、受付開始の数日で募集人数を上回る申込みをいただいております。

Information

インフォメーション

共同機構研修会案内

10/13(水)

菅戸健夫 大阪健康福祉短期大学特任教授

京都市保育士会共催

「子育て支援 ～これまでとこれから～」

申込締切は9月29日予定です

子育て支援について、これまでの経過や保育園(所)・幼稚園で取り組まれてきたこと、そしてこれから求められる課題について、保育園(所)・幼稚園がどのように取り組んでいくべきかについて学んでいきたいと思っております。

11/4(木)

鈴木正敏 兵庫教育大学大学院准教授

京都市私立幼稚園協会共催

「保育所・幼稚園と小学校との連携の充実」

案内状発送は10月6日予定、
申込締切は10月21日予定です

国内外で取り組まれている実践や事例にはどのようなものがあるのかを知ることで、今現在の保育・教育との違いを見つめ直しながら、保・幼・小が連携していく上で何が大切なのかという連携のあり方について学んでいきたいと思っております。

編集後記

こどもみらい館1階『こども元気ランド』では、毎日ストリートオルガンを演奏しています。今年度新しく演目が増えました。「そうだったらいいのにな」「崖の上のポニョ」など子どもたちが大好きな曲が流れると、その演奏に合わせて元気な歌声が響いてきます。心が和むひとときです。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。
(「子どもを共に育む
京都市民憲章」より)



発行日 平成22年9月15日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909
URL <http://www.kodonomirai.or.jp>